「コンフリクト・マネジメント・セミナー」を開催しました。

１２月２３日～２４日に国立病院機構長崎川棚医療センター院長　宮下光世先生、九州医療センター医療メディエーター東幸代先生をお迎えし、コンフリクト・マネジメント・セミナー（医療メディエーター研修）を開催しました。院内・院外から２９名の参加があり、多職種でのロールプレイなど楽しく参加できました。

メディエーションとは当事者間の対話の場の形成と促進を通して、互いに納得のいく創造的な合意と信頼の構築を図るための支援をすることです。医療メディエーター（医療対話推進者）は、院内での様々な患者と医療者の対話の橋渡しをする役割を持っています。今回の研修でメディエーションが様々な場面で対話の促進に有効であることがわかりました。患者さんの思いを受け止めたケアにつなげられるように、これからさらに実践を重ねていきたいと思います
参加者のアンケートから「対話の重要性を感じた」「クレームに背を向けてきたが、対話の持つ重要性が分かり前向きになれた」「メディエーションは職場でも家庭でもいろいろの場面で活用できる」などの感想も聞かれました。

臨床の現場では様々な認知の齟齬で思い悩むこともたくさんありますが、対話を促すことで解決の手助けとなれるよう、これからも努めていきたいと思います。